

心新たに
戦争の真実を見つめ
核兵器廃絶と平和を願う

'88

しながわ

平和のための戦争資料展

第5回

テーマ：戦争と私たち

8/6土, 8/8月, 8/9火, 8/10水, AM.10:00—PM.8:00

展示内容ごあんない

日本のアジア侵略——15年戦争

シンガポールの中学歴史教科書では、「第2次世界大戦と日本の東南アジア征服」について多くの紙面がさかれ、戦争への経緯と日本軍隊の驚くべき実態が生々しく記述されています。憲兵隊が行った数々の拷問や虐殺など、占領下のシンガポールで日本人が他民族をどのように扱ったかを明らかにしています。15年戦争・太平洋戦争のなかで、日本は、朝鮮から中国へ、さらに東南アジアへの侵略を拡大していきます。アジア諸民族にとって、この戦争は何であったのでしょうか。またどのように抵抗したのでしょうか。

急成長した日本経済、大資本は競って市場をアジア諸地域に拡大している今、かつて日本が行ってきた行為を明らかにし、再び同じようなあやまちを繰り返してはならないと思います。

武蔵小山商店街と満洲開拓団

私たちは、昭和18年第13次東京開拓団として満洲へ出発しました。企業整備で、転廃業した中小商工業者が、続々と満洲に入植した頃のことです。私たちは荏原の小山銀座といわれた商店街に住んでおりましたが、一切をなげうって、進んで入植していったのです。私たちは政府を信頼しておりましたし、開拓という英雄的な冒険心や「五族協和」という美しい夢さえもって、すばらしい歓送の旗の波に泣きぬれ、希望につつまれながら海を渡ったのでした。

(故足立守三氏の証言より)

商店街に接する朗せい寺には、その開拓団の殉難者慰霊碑が建立されています。

戦争と私たちの食糧

戦争中は物資が欠乏し、少ない配給の中で日頃口にしないようなものを工夫して食べ、なんとか食いつないでいました。

戦争が終わり人々はほっとしたのですが、食糧不足は一層深刻となりました。欠食児童も多かったのです。このような中でGHQの援助の中、学校給食が始まりました。・・・

現代は飽食の時代、しかし、日本の食糧自給率は年々低下しています。

日本の食糧は今後どうなっていくのでしょうか。

もうひとつの核——原発

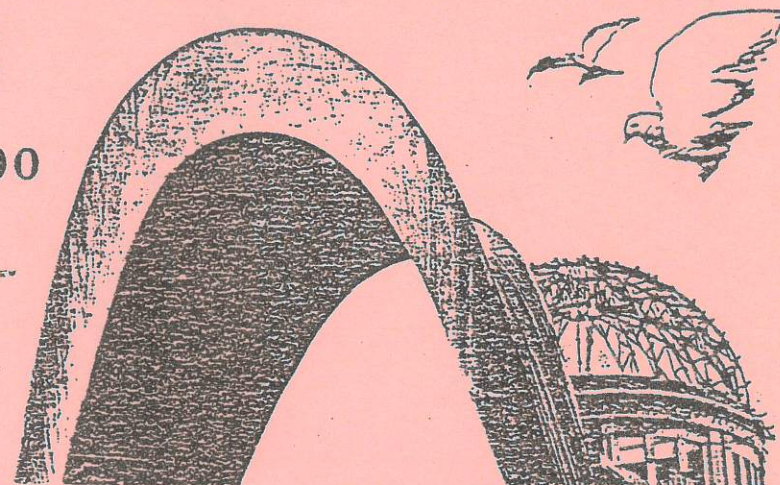
チェルノブイリ(ソ連)原子力発電所の事故が東ヨーロッパだけでなく、世界中に警報を鳴らしました。

スリーマイル島(米国)における原発事故を考えあわせると、あらためて原発の安全性に眼がむけられます。

日本は、米軍の核戦略の基地とともに有数の原発国となっています。

原子炉そのものを安全にコントロールすることに保障がないばかりでなく、放射性廃棄物(使用済み核燃料の再処理)をどうするかもみつけれられていません。

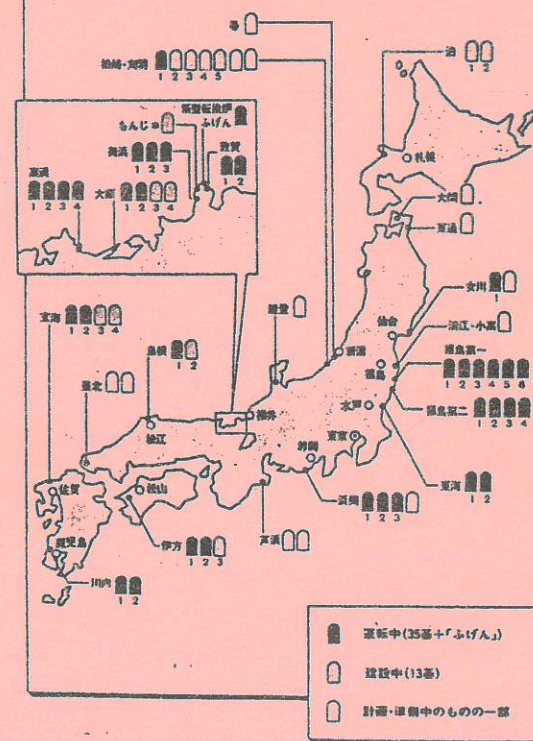
アメリカの核軍拡政策の一端を担って進められている原子力発電所開発をもう一度考えてみましょう。



戦争中の飛行機写真(原簿を2州会下さる)



原発が密集する日本列島



主催・しながわ

tel (776)1351

「平和のための戦争資料展」実行委員会



逆もどりする教育

「君が代」・「日の丸」の強制、道徳教育の強化、そして教員には上からの研修が押しつけられるなど、今教育が大きく変えられようとしています。また教科書検定もきびしさを増し、軍人を教科書に登場させるような動きもあります。